

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成20年10月(2008年)No.514

第48回OMC映像フェスティバル 大盛會にて無事終了

今年のOMC映像フェスティバルは、当日天候が心配されましたが、少しばかりの雨が合った程度の曇天で、まずまずのフェスティバル日よりでした。快晴でしたら行楽に出かける人も多かったでしょうし、本格的な雨なら、出かけるのは止めとこうか、という人も出るでしょうし、丁度良かったのかも知れません。それよりOMCの伝統ある映写会に期待して集まって頂いた方が多かったのではないのでしょうか。お陰様で予想以上の観客動員で場内は大入り満員でした。まことに有難い限りです。

今年は、いつものように藤原さんが音響設備を一式持ち込んでの完璧なまでの映写会が出来ない、という想定外の出来事がありましたが、そこはそれ、原点に立ち返って、関、西井の両氏をはじめ、多くの会員諸氏が一生懸命になって対応して頂きましたので、無事、たいしたトラブルもなく映写会を終えることが出来ました。また、1万ルーメンという驚異的な明るさのプロジェクターをご提供頂いた黒田先生への謝意も含め、ご協力頂いた会員諸氏へあらためて感謝の意を表します。なお、藤原さんには従来通りのOMC映像フェスティバル公式記録として、DVDを製作して頂きました。厚く御礼申し上げます。

発表会后、10人以上からの観客の方から、今年の作品は大変素晴らしかったとおほめの言葉を頂戴いたしました。確かに良い作品が多く印象深いものがあったのではないのでしょうか。さあ、来年の発表会へ向けてあらたなる出発をいたしましょう。

10月例会のお知らせ

10月例会は第4土曜25日18時より、大阪市立難波市民学習センター(JR難波駅上OCATビル4階)にて開催。皆様のお越しをお待ちしています。作品の方もどうぞお持ち下さい。季節良し、月1回の例会と二次会、楽しいひとときを過ごしましょう。

■ OMC映像フェスティバルに祝電を頂いた方々は次の通りです

- ・東京アマチュア映像連盟
顧問 川上勝晤 様
- ・新潟アマチュア映像連盟
会長 川辺明彦 様
- ・京都アマチュア映像
会長 中嶋 哲 様
- ・映像神奈川
会長 金子豊一 様
喜代子 様
- ・東京映像
会長 渡会 猛 様
- ・東京アマチュア映像連盟
副会長 早川 潔 様
- ・和歌山8ミリビデオサークル
会長 鎌崎道弘 様
- ・明舞ビデオ友の会
会長 本田裕信 様
- ・(株)吉岡映像
社長 吉岡博行 様
- ・映像 銀の会
会員一同 様
- ・大和郡山市
佐原説二 様

■ご祝儀頂いた方(1万円) 佐原説二 様

以上、ご祝電、ご祝儀まことに有難うございました。ご祝電は第二部開催のはじめに全文を披露させて頂きました。また、翌日、早速お礼状を差し上げました。

祝電披露でお名前だけの紹介は

失礼ではないか、という声への対応

会長 合原一夫

映像の発表会では祝電は会を盛り上げるには有難いものです。慶弔行事ではつきものです。OMC映像フェスティバルでは、多い時は15本以上、今年は11本でした。

世の中、今やメールやファックスが当たり前の時代ですが、相変わらず「祝電」という形をとられているのは何故でしょうか。公開映写会の場合、祝電の相手先が特定の個人ではなく「フェスティバル」そのものへの祝意だから、メール等ではそぐわないという思いからなのではないでしょうか。形式的だとか、つき合いだから、と言うのは簡単ですが、やはり「フェスティバル」の雰囲気盛り上げていく一つの御膳立てとして、それなりに役立っているものと思われ

ます。祝電は、くださった方のお名前のほかに

本文があります。

あるとき、ある人から祝電披露の際、1～2名の方の祝電のみ本分を披露し、残りの方のお名前のみで終わらず、というのは、如何にも失礼ではないか、というお声を頂戴したことがありました。

そこで、今回の祝電は全部の本文を紹介いたしました。全部を読み上げても5分位で終わるなあと考えたからです。

会の進行は始まりと終わりの時間が決まっており、作品上映のトータルタイムも決まっていますので、進行タイムは司会の時間と祝電披露の時間如何が大切です。時間がゆったり取れるときは問題ないのですが、OMC映像フェスティバルの場合は、余裕があれば作品数を増やしますので、まずは司会の時間は1作品当り1分30秒、ご挨拶と祝電披露で7～10分程度です。

■祝電披露が長いと客が退屈するかも

感動的な文章ならともかく、形式的な文章だと長々と読み上げるとお客さんが「えゝ加減にして先へ進んで！」となりかねません。ですから私は1通30秒として10通程度なら全部読み上げてもよいが、全体で5分を過ぎる時は、以下お名前のみで仕方がないと考えています。お名前のみでも祝意は充分伝わると思っていますので。

それよりお名前の読み間違いの方に気をつけなければならないなあ、合原をアイハラと読み上げられた時のことを思い浮かべて気を引き締めています。

9月例会レポート

すっかり涼しさを感じる季節到来、これから撮影に、行楽に、誠に良い季節となりました。待ち遠しい例会で開会前の会話もはずみ、楽しいひとときを過ごしました。

今月の司会は有村氏、書記、岡本氏、デッキ係、河合、江村、増池の3氏、受付兼照明係は奥、渡辺の両氏の担当で会を進行いたしました。

◆出席者：有村、井上、上田、江村、岡本、奥、上総、河口、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、西井、錦、西村、華岡、前田、増池、松本、森田、安居、吉岡、渡辺、宮井の26氏に見学者1名、計27名出席。

◆上映作品（今月の記録と講評は岡本世話役です） 1. 髪長族の女たち

合原一夫さん 6分50秒

中国は、桂林から90北西に少数民族のヤオ族の住む村を訪ねられました。山間部の溪谷に架けられた吊り橋を民族衣装をまとった7~8人の女性が渡ってきます。やがて川において、その長い黒髪を解かして整えるシーが始まります。そしてとっておいた髪も添えていきます。これはおそらく観光者向けのショーなのでしょう。それが終わると、村里の館屋にもどって歌と踊りが始まりました。婚礼の時の踊りだそうです。見物人の男性が踊りに加わってショーは終わります。珍しい映像を拝見しました。

2. ぶらり撮りある記・宇治にて (W)

増池 茂さん 5分45秒

今年の12月例会に発表された作品を更に3分ほど縮められました。ただ縮めすぎたのか逆に映像が散漫になってしまった感じがします。短くすればするほどきめ細かな演出が要ります。

初冬の宇治だそうです。宇治川の逆光の美しさ、紅葉にふりそそぐ淡い光のコントラストとカメラワークの旨さは申し分ありません。

宇治といえば平等院が映ってないのが寂しいですね。それと、BGMが有名な曲だと思うのですが、もうちょっとテンポのよい曲がよかったのではないのでしょうか。

3. 望郷と漂白の歌人・石川啄木 (HDV)

紙本 勝さん 13分40秒

明治19年2月20日に岩手県日戸村に生まれ、26歳の波瀾万丈の生涯をとじるまでの記録をもとに纏められました。

岩手県まで出掛けられての撮影、そして啄木が、函館、札幌時代の映像は北海道に旅行で行かれた時の映像をうまくはめられました。まあよく調べられていて歴史文学映像の大作と言えます。小学校の教材映像になりそうな作品です。

4. 長浜曳山祭り「巢立」(HDV)

河合源七郎さん 12分44秒

この作品は、今年の4月に撮影されたものですが、5部作に分けてつくられるそう

で、今回はその第1作目だそうです。

「長浜曳山まつり」は、長浜に城を築いた羽柴秀吉に男子が誕生した際に喜びのあまりお祝いの砂金を城下町の人々に与え、それをもとに城下町の人たちが山をつくり、神社の祭礼に曳きまわしたのが始まりだそうです。まず、この解説からスタートします。

移動式舞台を載せた曳山の上で、子どもたちによる歌舞伎狂言が上演されます。上演する曳山は12基あり、毎年4基づつが3年に1度「出番山」を勤めます。

子どもたちの練習風景から本番を撮影されていますが、ストーリーを追えば長くなるし、絵になる素材であるがゆえ、映像をどう処理するかが難しいと思います。2作目も頑張ってください。期待しています。

5. 冬の余部 (HDV)

江村一郎 7分30秒

何日も、何回も、余部に足を運んでおられるのでしょうか。もう何作拝見させていただいたのでしょうか。今年の全国コンクール入賞「怒涛・余部」おめでとうございませう。

この入賞作品と少し趣を変えた作品に仕上がりました。まずは早朝おばあさんが、お地藏さんにお参りするシーンから始まりますが、ロングシーンとアップシーンはどうして撮ったのか話題になりました。おばあさんは毎朝お参りされるので何回か撮った映像をはめられたとのこと。ご苦労が伺われます。そして、子どもたちの登校シーンから人々のくらしが始まります。子どもの下校シーンから放課後の遊びのシーンへとつながります。ストーリーをもたせているところにこの作品の良さがあります。冬の寒さのなかにも、ほのぼのとした温もりを感じた作品でした。

6. 道頓堀遊覧船に乗って (HDV)

奥 宏さん 4分11秒

道頓堀川を運行している観光船に乗って撮影されたもの。施設にネオンがともる黄昏時の乗船なので明るさの調整が難しいですね。さらに2回乗船されたそうで余計に難しいようです。ハイビジョンの威力でしょうか映像は奇麗です。どこを走っている

のかコースがわからないと司会者の意見でした。案内ガイドの音声聞き取りにくいのでいっそ消してしまっただとナレーションとBGMにした方がよいかも。

7. 乗鞍山山頂へ (HDV)

有村 博さん 10分00秒

登山好きの作者。いつもはご夫妻の登山を拝見していますが、今回は、ご子息お二人をともなつての山岳映像です。

岐阜県と長野県にまたがっている北アルプスの南部、日本百名山の一つ、乗鞍岳に今年の8月に登られたホームビデオです。

曇平から頂上までのコースで、お年を心配されて、ご子息さんがサポートされての登山とのことですが、なかなかお元気な映像です。撮影されながらですからすごいです。微笑ましく記念になる作品になりました。

8. 江州音頭 (HDV)

進藤信男さん 10分02秒

滋賀県無形文化財として、発祥の地として、豊郷町に受け継がれている「江州音頭」取材されました。

河内音頭とともに河内地方でも踊られている「江州音頭」。発祥はお経を読みこんだ念佛踊りから始まったとか。絵日傘や扇子を持っての踊りや、仮装しての踊りを拝見しました。

まあよく調べられて作られました。

9. 奇跡の星植物園 (HDV)

井上勝彦さん 7分30秒

この作品は作者がOMCに入会される前の作品だとか、なかなかのものです。この植物園は、2000年の国際園芸、造園博「ジャパンフローラ2000」の会場となったところ。また、OMCの撮影会もやったところ。

作者お得意のスタビライダー撮影で園内をくまなく撮影されています。よくできた作品だと思います。今は入園者の少ないこの植物園にCM用にお貸ししてあげたいなあと思いました。最後の奥様のナレーションがよく効いています。

10. なはつきが行く・下り編 (HDV)

前田茂夫さん 14分24秒

鉄道マニアの作者。今年の3月例会で上

り編を発表されて今回は下り編です。

寝台特急「なは・あかつき」は親しみをこめて「なはつき」と呼ばれていました。京都発、熊本行が「なは」長崎行が「あかつき」で、鳥栖で分離されます。

このブルートイレンも2008年3月をもって姿を消しました。この最後の雄姿を映像にされたものです。なにしろ撮影ポイントが、京都、長岡京、山崎、高槻、茨城、新大阪、大阪、三ノ宮、兵庫です。一晩づついかれても何日もかかつての撮影ご苦労様でした。見ごたえありました。

11. 阪神電車ミナミへ (HDV)

安居利次さん 7分55秒

阪神電車が、西九条から京セラドームへ近鉄難波駅に乗り入れる工事が今行われている。その工事現場を見学できるチャンスに恵まれ、ビデオに収められました。

階段をつかって地下24まで降りての撮影、大変だったと思いますがよく撮られました。工事もうすごいが、1071億円という建設費はどこから出たのか、最後の落ちがよかったです。近鉄との乗り入れて、来春開通予定だそうです。

12. 夏祭 えびす萬燈籠 (HDV)

吉岡貞夫さん 10分00秒

西宮神社では、毎年7月20日に行われている夏祭りです。昨年は雨の中の撮影でしたが、今年は天気が良かったようです。

夕暮れ時から灯された5000個のローソクに灯がはいると幻想的な雰囲気につつまれます。そして、雅楽の奉納が始まるころには祭りは最高潮に達します。昼間のうだるような暑さから一転、涼風が駆け巡るころ祭りは終わりを迎えます。楽しい夏の風物詩でした。

13. 08よさこい (HDV)

森田光春さん 8分11秒

夏の高知はやはり、よさこい一色です。年々、衣装も派手で絵になります。編集も舞台演舞と路上演舞をうまく組み合わせで工夫されています。カメラワークもよいし楽しく拝見させていただきました。

以上で映写を終えて、喫茶組と居酒屋組の二手に別れて二次会を楽しみました。